令和８年１０月２３日

美幌町長　平　野　浩　司　　様

美幌町総合計画審議会
会長　　田　中　克　彦

第７期美幌町総合計画（素案）の答申について

令和７年１２月２日付で諮問のあった第７期美幌町総合計画の基本構想及び基本計画（素案）について、本審議会において慎重に審議した結果、概ね妥当であると判断しますが、以下のとおり意見を付して答申いたします。

１　基本構想（素案）について

第７期美幌町総合計画の策定にあたっては、第６期に引き続き、町民主体のもと、町民を対象としたアンケートや意見交換会により多くの意見を聴取し、町民４３名からなる『びほろ』みらいまちづくり会議において、素案が作成されたところです。引き続き、町民の声に耳を傾け、６つの基本目標、更には、基本目標毎の重点プロジェクトを遂行し、町の将来像である「大地の恵みのなか、人が育ち、未来をつくる、誇れるまち　びほろ」の実現を目指してください。

２　基本計画（素案）について

（１）　危機管理体制について、平時から地域や関連団体との協働による共助の体制を構築し、災害発生時には、被災者支援や迅速な復旧・復興に努めていただきたい。

（２）　広報について、町ホームページを町民だけでなく、町外の方々に対し、美幌町の活気や魅力を発信する重要なコンテンツとして充実を図っていただきたい。

（３）　子育て支援について、安心して子育てができる施策の充実を図り、「美幌町で子育てがしたい」と実感できるまちづくりを進めていただきたい。

（４）　地域経済について、各産業との連携から生まれる新たな施策を検討・実行し、持続的で活力ある、新たな産業基盤を構築していただきたい。

（５）　市街地機能について、町民のほか、町外から訪れる方々が集まり交流が生まれ、賑わいを創出する施設整備を進めていただきたい。

（６）　学校教育について、家庭と学校、そして行政が連携し、子どもたちの「確かな学力」の定着、そして更なる向上に努めていただきたい。

参　考　意　見

第７期美幌町総合計画の審議の過程において、挙げられた意見のうち、今後、実施計画の策定において参考としていただきたい事項について、以下のとおり提出します。

（１）　人口減少が進む中、行政サービスの機能を維持するため、採用試験の在り方検討など、様々な対策を講じ、職員の人材確保に努めていただきたい。

（２）　地域の集会室が若年層や子育て世帯が集まるコミュニティの場となる整備を検討していただきたい。

（３）　友好姉妹都市であるケンブリッジと、高校生の短期留学事業のほか、様々な交流活動により、町民に友好姉妹都市との関係性が伝わるよう取り組んでいただきたい。

（４）　ふれあい広場や子ども食堂、フードレスキューなどといった、社会福祉に関する取組により多く協力を得るため、町民に広く周知を図っていただきたい。

（５）　美幌峠や屈斜路カルデラトレイルなど、魅力的な観光資源を活用して、年間を通じてイベントを開催し、多くの観光客や町民が訪れるよう取り組んでいただきたい。

（６）　まちなかに賑わいを創出するため、拠点施設の整備、まちなかを中心とした回遊型観光など、関係団体と連携して検討していただきたい。

（７）　コンパクトシティ化を進めるべく、居住誘導区域内における住宅リフォームや空き家解体補助の拡充など、区域内に誘導を図る取組を進めていただきたい。

（８）　義務教育学校開校後、残る学校施設について、公共施設の機能集約や災害時の避難場所といった観点を踏まえ、今後の利活用を検討いただきたい。

（９）　美幌高等学校の魅力を高めるため、分野横断的に高校の特色ある教育活動を支援し、地域とともに、今まで以上の抜本的な対策を講じていただきたい。